

新疆ウイグル自治区

人権侵害(ジェノサイド)に喘ぐ歴史

新疆ウイグル自治区 (/ʃɪnˈdʒæŋ/)、正式には新疆ウイグル自治区 (XUAR) であり、以前は新疆ウイグル自治区としてローマ字化されていました。

中央アジアに近い国の北西に位置しています。

中国で最大の州レベルの行政区画であり、8番目に大きな国の行政区画である世界では、新疆ウイグル自治区は160万平方キロメートル (620,000平方マイル) を超え、約2,500万人の住民がいます。

新疆ウイグル自治区は、モンゴル、ロシア、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、アフガニスタン、パキスタン、インドの国々と国境を接しています。

険しいカラコルム山脈、クンルン山脈、天山山脈は、新疆ウイグル自治区の国境の大部分と、その西部および南部地域を占めています。アクサイチンとトランスカラコラムトラクトどちらも中国が管理する地域は、インドが領有権を主張しています。

新疆ウイグル自治区は、チベット自治区、甘粛省、青海省とも国境を接しています。歴史的なシルクロードの最も有名なルートは、東から北西の国境まで領土を通り抜けました。

ここには、トルコのウイグル人、カザフ人、キルギス人、ハン人、チベット人、回族、中国のタジク人 (パミール人)、モンゴル人、ロシア人、シベ人など、多くの民族が住んでいます。

新疆ウイグル自治区には、十数以上の自治州と少数民族の郡があります。

古い英語の参考書では、この地域を中国語のトルキスタ、東トルキスタン、東トルキスタンと呼ぶことがよくあります。

新疆ウイグル自治区は、山脈によって北のジュンガリア盆地と南のタリム盆地に分けられており、新疆ウイグル自治区の土地面積の約9.7%だけが人間の居住に適しています。

少なくとも2、500年の文書化された歴史により、この領土の全部または一部を支配するために、一連の人々と帝国が争ってきました。

領土は18世紀に清王朝の支配下に置かれ、後に中華民国政府に取って代わられました。

1949年と中国内戦以来、それは中華人民共和国の一部となっています。1

954年、新疆ビントウアン (XPCC) が設立され、ソビエト連邦に対する国境防衛を強化し、兵士をこの地域に定住させることで地域経済を促進しました。

1955年、新疆ウイグル自治区は行政的に州から自治区に変更されました。

ここ数十年で、新疆ウイグル自治区では豊富な石油と鉱物の埋蔵量が発見されており、現在、中国最大の天然ガス生産地域です。

1990年代から2010年代にかけて、東トルキスタン独立運動、分離主義者の紛争、過激なイスラム教

の影響により、時折テロ攻撃が発生し、分離主義者と政府軍が衝突し、この地域に不安が生じました。

これらの紛争により、中国政府はこの地域に強制収容所を設置するようになり、イスラム教徒に思想改革を通じて信仰を放棄させようとしたと伝えられている。

新疆ウイグル自治区の一般的な地域は、以前は多くの異なる名前で、先住民の言語や他の言語で知られていました。

これらの名前には、タリム盆地の「6つの都市」を指す地域の南半分の歴史的なUyghurの名前であるAltishahr、およびKhotan、Khotay、Chinese Tartary、High Tartary、East Chagatay（チャガタイ・ハナーテ）、モグーリスタン（「モンゴルの地」）、カシュガル、リトル・ボハラ、セリンディア（インドの文化的影響による）、そして中国語では「西部地域」。

中国語では、漢王朝の下で、新疆ウイグル自治区は「西域」を意味するXiyu（西域）として知られていました。

紀元前2世紀から西暦2世紀の間に、漢帝国は、シルクロードの収益性の高いルートを確保するために、西域都護または西域都護府を設立しました。

唐時代の西部地域は、七夕（積西）として知られていました。

チーはゴビ砂漠を指し、シーは西を指します。

唐帝国は西部を平和にするために保護総長を設立しました640年に安西都護府（安西都護府）が地域を支配する。

新疆ウイグル自治区北部の清王朝時代、ジュンガリアはジュンガル（準部、「ジュンガル地方」）と呼ばれ、タリム盆地南部はホイジャン（回疆、「イスラム教徒のフロンティア」）と呼ばれていました。

清王朝が1759年にアルトウシャフル・コハスの反乱を鎮圧した後、両地域は合併し、「新疆ウイグル自治区」（中国語：西域新疆; lit. 「西域」「ニューフロンティア」）の地域となり、後に「新疆」/「新疆」と簡略化されました。

（中国語：新疆、満州：ᡩᠠᡳᠵᡳᠩ、ローマ字表記：ice jecen）。正式名称は1878年の光緒帝の治世中に付けられた。

中国の政治家、左宗棠の光緒帝への報告によると、新疆は「新しく返還された古い土地」（故土新歸）または「新しい土地」を意味する。

実際、「新疆」という用語は征服された他の多くの場所で使用されていましたが、中国南部の地域を含む段階的なガイトウギリウ政権改革まで、中国帝国によって直接支配されることはありませんでした。

たとえば、現在の四川省の金川県は、「金川新疆」として知られていました。

雲南省では直接「新疆」、黔東南地域、安順、鎮寧は「梁陽新疆」と名付けられました。

1955年、新疆ウイグル自治区は「新疆ウイグル自治区」に改名されました。

当初提案された名前は、単に「新疆自治区」でした。新疆ウイグル自治区の初代会長であるサイフディン・アジジ氏は、毛沢東に提案された名前に強い反対を表明し、「山や川に自治権は与えられていない。特定の国籍に与えられている」と主張した。その結果、行政区域は「新疆ウイグル自治区」と名付けられます。

新疆ウイグル自治区は、天山山脈の北にあるジュンガリアと天山山脈の南にあるタリム盆地という、地理的、歴史的、民族的に異なる2つの主要な地域で構成されています。

その後、清中国は1884年に新疆ウイグル自治区と呼ばれる1つの政治団体に統合しました。

1759年の清の征服の時、ジュンガリアには草原の住居、遊牧民のチベット仏教のズンガルの人々が住んでいましたが、タリム盆地には座りがちなオアシスの住居、トルコ語を話すイスラム教徒の農民が住んでいました。

それらは1884年まで別々に統治されていました。

タリム盆地のネイティブウイグル名はAltishahrです。

清王朝は、天山山脈の北にある旧仏教モンゴル地域と天山山脈の南にあるトルコのイスラム教徒地域の違いをよく知っており、当初は別々の行政単位で統治していました。

しかし、清の人々は、両方の地域を新疆と呼ばれる1つの別個の地域の一部と考え始めました。

1つの明確な地理的アイデンティティとしての新疆の概念そのものが、清によって作成されました。

もともとそのように見たのは先住民ではなく、その見方をしたのは中国人でした。

清の統治の間、一般の新疆ウイグル自治区の人々は「地域のアイデンティティ」の感覚を持っていませんでした。

むしろ、新疆ウイグル自治区の明確なアイデンティティは、地理、歴史、文化が異なるため、清によってこの地域に与えられました。

同時に、中国人によって作成され、多文化であり、漢族とホイ族によって定住し、中央アジアから離れていました。

新疆ウイグル自治区は人口がまばらな広大な地域で、160万km²（イランに匹敵する大きさ）に及び、国土の約6分の1を占めています。

新疆ウイグル自治区は、南はラダックのチベット自治区とインドのレー地区、東は青海とガンスの各州、東はモンゴル（バヤンウルギー、ゴビアルタイ、ホブドの各州）、ロシアのアルタイ共和国は北とカザフスタン（アルタイ東カザフスタン地域）、キルギスタン（イシククル、ナリン、オシュ地域）、タジキスタンの
ゴルノバダフシャン自治区、アフガニスタンのバダフシャン州、パキスタンのギルギットバルチスタンが西にあります。

天山山脈の東西の鎖は、北のジュンガリアと南のタリム盆地を隔てています。

ジュンガリアは乾燥した草原であり、タリム盆地にはオアシスに囲まれた巨大なタクラマカン砂漠があります。

東にはトルファン盆地があります。西では、天山山脈が分裂し、イリ川渓谷を形成しました。

現代の新疆ウイグル自治区を含むこの地域の初期の住民は、遺伝的に北東アジアと古シベリア起源であり、青銅器時代の後期の遺伝子流動は初期のインドヨーロッパ人の拡大に関連していました。

これらの人口動態は、不均一な人口構成を生み出しました。青銅器時代の新疆ウイグル自治区の古代のサンプルは、ヨーロッパ人よりも古シベリア人との親和性が高く、インド・ヨーロッパ語族（トカラ語）の普及が民族的よりも言語的であったことを示唆しています。

言語学的証拠は、この地域で話されているインド・ヨーロッパ語族（特にトカラ語）が古シベリア諸語からの多大な影響を示したことを明らかにしました。

ウラル語族とエニセイ語族。新疆ウイグル自治区の鉄器時代のサンプルは、混血でしたが、一般的に北東アジア人に近かった。

鉄器時代後期には、「黄色い川の農民」からの遺伝子流動が新疆ウイグル自治区全体で増加し、漢民族に関連していました。

2009年から2015年の間に、Xiaohe墓地の92人の遺体が、Y染色体とミトコンドリアDNAマーカーについて分析されました。

ミイラの遺伝子分析は、Xiaoheの人々の母系が東アジアと西ユーラシアの両方に由来することを示しました。

父方の血統はすべてシベリアで生まれました。

初期のタリムの人々は、古代北ユーラシア人と北東アジア人の子孫の間の混合から生じたようです。

タリムミイラは、楼蘭などのタリム盆地西部のさまざまな場所で発見されています。

Xiaohe Tomb複合施設、およびQäwrighul。これらのミイラは、以前はトカラ語またはインド・ヨーロッパ語族であることが示唆されていましたが、最近の証拠は、ミイラがアフアナシェヴォなどのインド・ヨーロッパ語族の牧畜民とは無関係の別個の集団に属し、未知の言語、おそらく言語分離株を話したことを示唆しています。

月氏、坂、烏孫などの遊牧民族は、おそらく中央アジア西部に定住したインド・ヨーロッパ語族の移住の一部でした。

武帝（紀元前141～87年）の漢王朝がタリム盆地西部を以前の大君主（匈奴）から遠ざけるまでに、ターファンと亀茲のインドヨーロッパ語を話すトハラ人を含むさまざまな人々が住んでいました。

疏勒王国とホータン王国を中心とするサカ族、チベット・ブルマ人グループ、特にチャン族や漢民族に関係する人々。

月氏の文化はこの地域で記録されています。

月氏への最初の既知の言及は、紀元前645年に、中国の首相である管子が彼の作品である管子（管子、管子エッセイ：73：78：80：81）で行ったものです。

彼は、甘粛省の近くの山（別名ゆし）から中国人に翡翠を供給した北西部の人々として、Yúshì、禺氏（またはNiúshì、牛氏）を説明しました。

長年の翡翠の供給^[44]タリム盆地からの発掘調査は、考古学的に十分に文書化されています。

現代の新疆ウイグル自治区で。紀元前1千年半ばには、ユエジは翡翠の貿易に従事し、その主要な消費者は中国の農業の支配者でした。

北シルクロードが交差、タリムとジュンガリア地域は西部地域として知られていました。

漢王朝（紀元前206年から西暦220年）の初めに、この地域は現在のモンゴルに拠点を置く強力な遊牧民である匈奴によって統治されていました。

紀元前2世紀、漢の武帝が張騫を派遣して西の神秘的な王国を探検し、匈奴に対して月氏と同盟を結んだとき、漢王朝は匈奴との戦争に備えました。

戦争の結果、中国人はオルドスと甘粛から戦略的地域を支配しました LopNorへの廊下。

彼らは匈奴を南部のチャン族から分離し、西部地域に直接アクセスできるようになりました。

漢匈戦争は張騫をこの地域の州への使節として派遣し、匈奴と漢匈戦争の間の数十年にわたる闘争を開始し、最終的に中国が勝った。

紀元前60年、漢中国は西域都護府を西域都護府に設立し、パミール高原まで西の地域を監督しました。

保護領は王莽との内戦中に押収され（西暦9～23年）、将軍の努力により91年に漢族の支配下に戻った。

西晋は、4世紀初頭に北からの遊牧民による侵略の波に屈しました。

前涼、前秦、後梁、西涼など、中国北西部を次々と支配していた短命の王国はすべて、さまざまな成功の度合いで保護領を維持しようとしていました。

北魏帝国の下で華北が最終的に統一された後、その保護領は現在の新疆ウイグル自治区の南東部を支配しました。

Shule、Yutian、Guizi、Qiemoなどの地方の州西部地域を支配し、トルファン周辺の中央地域は高昌によって支配されていました。

高昌は、かつて中国北西部の甘粛省の一部を支配していた州（北涼）の名残です。

大きなラクダに乗っている小さなamrのセラミック像
フタコブラクダのソグド人。唐三彩陶磁器像、唐王朝
唐王朝の間に、西突厥汗国とその家臣、つまり新疆ウイグル自治区南部のオアシス州に対して一連の
遠征が行われました。

太宗皇帝の下で、640年に高昌が併合されてオアシス国家に対するキャンペーンが始まった。

近くのカラサル王国は644年に唐に占領され、クチャ王国は649年に征服された。

唐王朝はその後、西大都護府を平和化するために保護総長を設立した）、または地域を管理するた
めに640年にAnxiProtectorate。

唐王朝をほぼ破壊した安史の乱の間に、チベットは新疆ウイグル自治区から雲南省までの広い前線
で唐に侵入しました。

それは763年に長安の唐の首都を16日間占領し、世紀の終わりまでに南疆を支配しました。

回鶻は、新疆ウイグル自治区北部、中央アジアの大部分、およびモンゴルを同時に支配しました。

チベットと回鶻の汗国が9世紀半ばに衰退したため、カラハン朝（カルルク、チギル、ヤグマを含むチュ
ルク族の連合）[50]は、10世紀から11世紀にかけて新疆ウイグル自治区を支配しました。

モンゴルのUyghurKhaganateが840年にキルギスによって破壊された後、Uyghursの支部は、Qocha
（Karakhoja）とBeshbalik（現在のTurfanとUrumchiの近く）に設立されました。

ウイグル州は、外国の大君主によって統治されていたものの、13世紀まで新疆ウイグル自治区東部に
とどまりました。

カラハン朝はイスラム教に改宗した。新疆ウイグル自治区東部のウイグル州、当初はマニ教徒、後に
仏教に改宗。

満州の遼王朝の残党は1132年に新疆に侵入し、隣接する女真による反乱から逃れた。彼らは新しい
帝国、Qara Khitaiを設立し、次の世紀に向けてタリム盆地のKara-KhanidとUyghurが所有する部分を
支配しました。

Khitanと中国語が主要な管理言語でしたが、ペルシア語とウイグル語も使用されました。

現在の新疆ウイグル自治区はタリム盆地とジュンガリアで構成されており、もともとは仏教とゾロアスタ
ー教を实践したインド・ヨーロッパ語族のトハラ人とイラン人のサカ人が住んでいました。

トルファン盆地とタリム盆地には、トカラ語を話す人々が住んでおり、この地域で白人のミイラが見つかり
ました。

この地域は、カシュガルを占領したカラハン朝の改宗により、10世紀にイスラム化された。10世紀半ば
、サカ仏教のホータン王国は、チュルクのイスラム教徒カラハン朝の支配者ムサに襲われました。

カラハン朝の指導者ユースフ・カディール・カーンがホータンを征服した1006年頃。

チンギスカンがモンゴルを統一し、西への進出を開始した後、トルファン-ウルムチ地域のウイグル州は1209年にモンゴルに忠誠を誓い、モンゴルの帝国の努力に税金と軍隊を寄付しました。

その見返りに、ウイグル人の支配者は彼らの王国の支配を維持しました。

チンギスカンのモンゴル帝国は1218年に西遼を征服しました。

新疆ウイグル自治区はオゴデイカーンの拠点であり、後に彼の子孫であるカイドウの支配下に置かれました。

モンゴル家のこの支部は、彼らの支配が終わるまで元王朝を寄せ付けませんでした。

モンゴル帝国時代、元王朝はこの地域の統治のためにチャガタイ・ハン国と争い、後者がそのほとんどを支配しました。

14世紀半ばにチャガタイ・ハン国が小さな汗国に分割された後、政治的に崩壊した地域は、モグーリスタン（地元のドゥグラト首長の支援を受けて）、ウイグルスタン（後のトルファン）からのものを含む多くのペルシャ化されたモンゴルのカーンによって支配されました。

カシュガリア。これらの指導者たちは互いに、そして西のトランスオキシアナのティムール朝とオイラトと戦った。

モンゴルと中国に拠点を置く後継のチャガタイ政権。17世紀の間に、ジュンガルはこの地域の大部分に帝国を樹立しました。

モンゴルのジュンガルは、最後の遊牧国家の1つを形成し、維持したいくつかのオイラト族の集団的アイデンティティでした。

ジュンガル汗国は、万里の長城西部から現在のカザフスタン東部まで、そして現在のキルギスタン北部からシベリア南部まで、ジュンガリアを覆っていました。

17世紀初頭から18世紀半ばにかけて存在したジュンガル帝国の崩壊後、この地域のほとんどは中国人によって「新疆」と改名されました。

タリム盆地の座りがちなチュルクのイスラム教徒はもともとチャガタイ・ハン国によって統治され、ジュンガリアの遊牧民の仏教徒のオイラト・モンゴル人がジュンガルの汗国を統治していました。

ムハンマドの子孫であるナクシュバンディー教団のスーフィーホージャは、17世紀初頭にタリム盆地の支配者としてチャガタイドカーンに取って代わった。

2つのKhoja派閥、Afaqi（ホワイトマウンテン）とIshaqi（ブラックマウンテン）の間で争いがありました。

IshaqiはAfaqiを打ち負かし、AfaqKhojaは5番目のDalaiLama（チベット人の指導者）を招待しました）1677年に彼に代わって介入する。

その後、ダライ・ラマは、ジュンガル汗国のジュンガル仏教信者に招待に応じて行動するよう呼びかけた。

ジュンガルの汗国は1680年にタリム盆地を征服し、傀儡支配者としてアフアキコハを設立しました。イスラム教に改宗した後、トルファンの以前の仏教ウイグル人の子孫は、「不信者カルムイク人」（ジュンガル人）が彼らの地域に仏教の記念碑を建てたと信じていました。

その後、トルファンとクムルのオアシスのチュルク人イスラム教徒は清王朝に服従し、中国にジュンガルから解放するよう要請した。

清は彼らの支配者を家臣として受け入れました。

彼らは彼らを打ち負かす前に何十年もの間ジュンガルと戦いました。

その後、清満州旗手はジュンガルの大量虐殺を実施した、それらをほぼ根絶し、ジュンガリアの人口を減らします。

清は、アフアキ・ホージャの指導者であるバーハン・ウッディンと彼の兄弟であるホージャ・ジハンをジュンガルの投獄から解放し、タリム盆地を清の家臣として統治するように任命した。

Khoja兄弟は合意に同意し、タリム盆地の独立した指導者であると宣言しました。

清とトルファンの指導者エミン・コジャは彼らの反乱を鎮圧し、1759年までに中国はジュンガリアとタリム盆地を支配した。

満州清王朝は、17世紀に始まったジュンガルとの長い闘いの結果、新疆ウイグル自治区東部の支配権を獲得しました。

1755年、オイラトの高貴なアマルサナーの助けを借りて、清は伊寧を攻撃し、ジュンガルのカーンを捕らえました。

ジュンガル・カーンを宣言するというアマルサナーの要求が答えられなかった後、彼は清に対して反乱を起こした。

清軍は次の2年間でジュンガル汗国の残党を破壊し、多くの漢民族とホイは平和な地域に移動しました。

ネイティブのジュンガルオイラトモンゴル人は、残忍なキャンペーンと天然痘の同時発生に大きな打撃を受けました。

作家の魏源は、現在の新疆ウイグル自治区北部で生じた荒廃を「数千里の空の平原であり、降伏したものを除いてオイラトのパオはない」と述べた。

60万人（またはそれ以上）のジュンガルの80パーセントが病気と戦争の組み合わせで死亡したと推定されており、回復には何世代もかかった。

ハンとホイの商人は当初、タリム盆地での取引のみが許可されていました。

タリム盆地での彼らの定住は、1830年のムハンマド・ユスフ・ホージャの侵略まで禁止されていました。

清は、ホージャとの戦いで商人に彼らが盆地に定住することを許可したことで報いました。

ウイグル人イスラム教徒のサイドとナクシュバンディー教団のスーフィー教徒であるアフアキ族の反乱者であるジャハーンギール・コージャは、1828年に満州人によって清に対する反乱を主導したとしてスライスされて死んだ（凌遲刑）。

ロバートモンゴメリーマーティンによると、さまざまな職業を持つ多くの中国人が1870年にジュンガリアに定住しました。

しかし、トルケスタン（タリム盆地）では、少数の中国人商人と駐屯軍兵士だけがイスラム教徒の人口に散在していました。

1765年のウイグル人による満州に対するウイグル人の反乱は、ウイグル人の女性が満州の公務員スーチェンの使用人と息子にレイプされた後に始まりました。

何ヶ月にもわたる虐待のために、「Ushイスラム教徒は[Suchengと息子の]皮で寝て肉を食べたいとずっと望んでいた」と言われた。

満州皇帝は、ウイグル人の反乱軍の町の虐殺を命じた。

清軍はウイグル人の子供と女性を奴隷にし、ウイグル人の男性を殺害した。

満州の兵士や役人によるウイグル人女性の性的虐待は、満州の支配に対するウイグル人の深い敵意を引き起こした。

1860年代までに、新疆ウイグル自治区は1世紀の間清の支配下にありました。

この地域は1759年にジュンガルの汗国から占領され、その人口（オイラト）が大量虐殺の標的となった。新疆ウイグル自治区は主に半乾燥または砂漠であり、非貿易の漢族入植者にとって魅力的ではなく、他の人々（ウイグル人を含む）はそこに定住しました。

イスラム教徒の回族や他のイスラム教徒の民族グループによる回民蜂起は、1862年から1877年にかけて、中国の陝西省、寧夏回族自治区、甘肅省、新疆ウイグル自治区で戦われました。

陝西省からの数千人のイスラム教徒難民が甘肅省に逃亡した。

甘肅省東部に大隊を結成し、陝西省の土地を征服しようとした者もいた。

ホイの反政府勢力が甘肅省と陝西省を攻撃する準備をしている間、ヤクブ・ベグ（ウズベキスタンまたはタジクの司令官Kokand Khanate）は、タシケントをロシア人に失った後、1865年に汗国から逃げました。

ベグはカシュガルに定住し、すぐに新疆を支配しました。

彼は貿易を奨励し、キャラバンサライ、運河、その他の灌漑システムを建設しましたが、彼の体制は厳しいと見なされていました。

中国人はYettisharに対して決定的な行動をとった。

左宗棠將軍の軍隊がカシュガルに急速に接近し、1877年5月16日にカシュガルを征服した。

1870年代後半にヤクブベグから新疆ウイグル自治区を征服した後、清王朝は1884年に新疆ウイグル自治区（「ニューフロンティア」）を州として設立し、中国の一部とし、ジュンガル（準部、ジュンガル地域）およびホイジャン（イスラム教徒）。

新疆ウイグル自治区が中国の州になった後、清政府はウイグル人に新疆ウイグル自治区南部から州の他の地域（主に漢中国人が住む奇台と首都の間の地域、およびイリのウルムチ、タチェン（タバルガタイ）など）に移住することを奨励しました、Jinghe、Kur Kara Usu、Ruoqiang、Lop Nor、およびタリム川下流。

1912年、清王朝は中華民国に取って代わられました。

新疆ウイグル自治区の最後の清知事である袁大化は逃亡した。

彼の部下の一人である楊增新は、その年の3月に台湾を支配し、名前で中華民国に加盟しました。

混合民族のバランスを取りながら、ヤンは国民党の北伐後の1928年の暗殺まで新疆を支配した。

盛世才知事は1933年から1944年まで統治しました。

クムル反乱などは、1930年代初頭に、ウイグル人、他のチュルク人グループ、回族（イスラム教徒）の中国人を巻き込んだヤンの後継者である金樹仁に対して新疆ウイグル自治区全体で勃発しました。

ジンは反乱を鎮圧するために白人口シヤ人を雇った。1933年11月12日のカシュガル地域では、短命の第1次東トルキスタン共和国は、「東トルキスタン」と「ユグリスタン」のどちらと呼ばれるべきかについての議論の末、自称されました。

ETRが主張する地域は、新疆ウイグル自治区南西部のカシュガル、ホータン、アクス県を含んでいた。

中国のイスラム教徒 国民党 第36師団（国家革命軍）は、1934年のカシュガルの戦いで第1次東トルキスタン共和国の軍隊を破り、中国のイスラム教徒が2つの首長、アブドラ・ブグラとヌル・アフマド・ヤン・ブグラを処刑した後、共和国を終わらせました。

ソビエト連邦は州を侵略しました。

1937年の新疆ウイグル自治区戦争後、漢族の北東部の將軍盛世才の支配下に置かれました。

シェンはソビエト連邦の支援を受けて次の10年間新疆を統治しました、彼が制定した民族および安全保障政策の多く。ソビエト連邦は州内に軍事基地を維持し、数人の軍事および経済顧問を配置しました。

シェンは中国の共産主義者のグループを新疆ウイグル自治区（毛沢東の兄弟である毛沢民を含む）に招待したが、陰謀を恐れて1943年に全員を処刑した。

1944年、中国の蔣介石首相は、ソビエト連邦の蔣介石に参加する意向を知らされ、翌年、重慶に農

林大臣として異動しました。

人民解放軍は1949年に新疆ウイグル自治区に入り、国民党のタオ・ジユエ司令官と政府のブルハン・シャヒディ議長が新疆ウイグル自治区を降伏させた。

ETRの主権について中国人と交渉することになっていた5人のETR指導者は、その年のカザフソビエト社会主義共和国での航空事故で死亡した。

中国の自治区は1955年10月1日に設立され、州に取って代わりました。

その年（1953年に中国で最初の近代国勢調査が行われた）、ウイグル人は新疆ウイグル自治区の総人口511万人の73パーセントでした。

新疆ウイグル自治区は、1954年以来「ウイグル自治区」に指定されていますが、その地域の50%以上が、13のネイティブ非ウイグルグループの自治区に指定されています。

現代のウイグル人は、中国が以前は別々に自己識別したオアシスの人々を認識した1955年に民族起源論を発展させた。

1950年代、王震将軍は新疆ウイグル自治区のPLA部隊で数千人の湘語女性を性的奴隷に強制した。

新疆ウイグル自治区南部には、ウイグル人の人口の大部分、約900万人が住んでおり、総人口は2,000万人です。漢民族の55%は、主に都市部で、新疆ウイグル自治区北部に住んでいます。

北部のユングハル盆地（ジュンガリア）は南部よりも開発が進んでいるため、これは経済的不均衡を生み出した。

1970年代後半以降の中国の経済改革により、不均一な地域開発が悪化したため、より多くのウイグル人が新疆ウイグル自治区の都市に移住し、一部の漢族は経済発展のために新疆ウイグル自治区に移住しました。

鄧小平は1981年に新疆ウイグル自治区を9日間訪問し、この地域を「不安定」と表現しました。

民族的接触と労働競争の増加は、1997年のウルムチバス爆撃などの1990年代以降のウイグルテロと一致した。

2000年には、ウイグル人は新疆ウイグル自治区の人口の45%、ウルムチの人口の13%でした。

新疆ウイグル自治区の人口の9%を占めるウルムチは、この地域のGDPの25%を占めています。

多くの地方のウイグル人は、その軽い、重い、そして石油化学産業で働くために都市に移住しました。

新疆ウイグル自治区のハンは、ウイグル人よりも年上で、教育水準が高く、高給の職業で働いている。

ハンはウルムチに引っ越すビジネス上の理由を引用する可能性が高く、一部のウイグル人は自宅での法的な問題や都市に引っ越す家族の理由を挙げています。

ハンとウイグル人は、主に商業で働くウルムチの浮遊人口に等しく代表されている。

市内の自動分離は、住宅の集中、雇用関係、および内婚において広く行き渡っています。

2010年、ウイグル人はタリム盆地で過半数を占め、新疆ウイグル自治区全体で複数であった。

新疆ウイグル自治区には81の公立図書館と23の美術館があり、1949年には1つもありませんでした。

1952年には4つであったのに対し、44の言語で98の新聞があります。

公式統計によると、一般人口に対する医師、医療従事者、診療所、病院のベッドの比率全国平均を上回っています。

免疫化率は85%に達しました。

進行中の新疆紛争には、2007年の新疆ウイグル自治区の襲撃、中国南部航空の飛行に対する2008年の自爆攻撃の阻止、北京の4日前に16人の警察官を殺害した2008年のカシュガル攻撃が含まれるオリンピック、2009年8月の注射器攻撃、2011年のホタン攻撃、2014年の昆明攻撃、2014年4月のウルムチ攻撃、そして2014年5月のウルムチ攻撃。攻撃のいくつかは、いくつかの実体（ロシア、[104]トルコ、英国、2020年10月までの米国、および国連）。

2014年、新疆ウイグル自治区の中国共産党（CCP）の指導者は、分離主義、テロリズム、過激主義の「三悪勢力」に対する人民戦争を開始しました。

彼らは20万人の党幹部を新疆ウイグル自治区に配備し、公務員と家族のペアアッププログラムを開始しました。

「敵を先制し、最初から攻撃する」ように指示した。

北京でのXiとの会談に続いて、陳全国はウルムチで1万人の軍隊、ヘリコプター、装甲車両で集会を開催しました。

彼らがパレードしたとき、彼は「破壊的で破壊的な攻撃」を発表し、「人民戦争の広大な海にテロリストとテロ集団の死体を埋める」と宣言した。

中国当局は、少なくとも2017年以来、人民戦争の一環としてウイグル人や他のイスラム教徒に教化するために新疆再教育キャンプを運営してきました。

キャンプは、多くの国や人権団体から虐待やウイグル人虐殺を主張する虐待。

2020年、中国共産党の習近平書記長は、「新疆ウイグル自治区を統治するための党の戦略が完全に正しいことを実践が証明した」と述べた。

2021年、2000年代初頭から新疆ウイグル自治区で使用されていた標準的なウイグル語の教科書は非合法化され、その作者と編集者は死刑または終身刑を宣告されました。

教科書は関連する政府関係者によって作成され承認されたが、2021年のAPによると、中国政府は「2003年版と2009年版の教科書には、民族分離、暴力、テロ、宗教的過激主義を説く84の節が含まれており、数人が2009年に地方の首都ウルムチで起こった血なまぐさい反政府暴動に参加するための

本に触発されました。」

新疆ウイグル自治区司法省の元長であるShirzatBawudunとSattarSawut新疆ウイグル自治区教育局の元首長は、テロと過激主義の罪で死刑判決を受けた。

他の3人の教育者と2人の教科書編集者にはより少ない文章が与えられた。

陳は、2021年12月に新疆ウイグル自治区のコミュニティ党書記として馬興瑞に交代した。

新疆ウイグル自治区は、カザフのモンゴルで、4つの県レベルの都市、6つの県、5つの自治州（7つの県のうち2つを管轄するイリの準自治州を含む）の13の県レベルの区分に分かれています。

キルギスとホイの少数派。2017年末現在、新疆ウイグル自治区の総人口は2,445万人でした。

次に、これらは13の地区、25の郡レベルの都市、62の郡、および6つの自治県に分割されます。

県級市の10市はどの県にも属さず、事実上新疆生産建設隊によって管理されています。